

中学校家庭科教材としての縫製手順の検討
－ハーフパンツ製作を事例として－

Consideration of sewing procedures for home economics
teaching materials in junior high school:
A case of articles on half pants

末弘 由佳理, 白坂 文, 吉井 美奈子

SUEHIRO, Yukari SHIRASAKA, Aya YOSHII, Minako

武庫川女子大学 学校教育センター紀要

第5号 2020年

【原著論文】

中学校家庭科教材としての縫製手順の検討

—ハーフパンツ製作を事例として—

Consideration of sewing procedures for home economics teaching materials in junior high school:

A case of articles on half pants

末弘由佳理* 白坂 文** 吉井美奈子***

SUEHIRO, Yukari* SHIRASAKA, Aya** YOSHII, Minako***

要旨

中学校家庭科で扱う教材については様々あるが、「股下を先に縫う方法」、「股上を先に縫う方法」の2種の異なる手順で縫製するハーフパンツに着目した。両者の製作方法を学ぶことで、学生にはパンツの構成・構造の理解を促すだけでなく、それぞれのメリット・デメリットを考察し、勤務校の生徒に即した教材の提案や構築を自らできる力を養うことを目指し、教職課程の教科に関する科目の教材として提案した。2種のハーフパンツの製作後に縫製手順を比較する内容のアンケート調査を実施した結果、「待ち針の打ちやすさ」の股上および股下、「縫いやすさ」の股上および股下、「アイロンのかけやすさ」の股下において有意差がみられ、各所においては扱いやすい方法があることが見出された。また、「将来、教員になった際に、扱いたい教授法か否か」の設問においては、自分自身が教員となった場合を想定し、生徒に理解しやすい縫製手順について教授する方法だけでなく、仕上がりの美しさや生徒のやる気についても考慮していることが分かった。さらに、本研究の被験者である学生たちは、「股上を先に縫う方法」が「股下を先に縫う方法」に比べ、中学校の教材として適する縫製手順と判断したことが示唆される。

キーワード：ハーフパンツ 家庭科教材 中学校 教員養成 学習指導要領

1. はじめに

武庫川女子大学では教職課程を設けており、生活環境学部生活環境学科、生活環境学部食物栄養学科、生活環境学部情報メディア学科の3学科では、中学校・高等学校教諭一種（家庭）、短期大学部食生活学科、短期大学部生活造形学科アパレルコースにおいては、中学校教諭二種（家庭）の教員免許を取得するカリキュラムを有している¹⁾。

「衣服構成」は、生活環境学部食物栄養学科、生活環境学部情報メディア学科、短期大学部食生活学科で開講の教職課程の教科に関する科目（免許法施行規則に規定する「被服学（被服製作実習を含む）」）である。本稿では、「衣服構成」の科目名で開講している被服製作実習の授業実践、中でもハーフパンツ²⁾の製作を一例として報告する。

2. 中学校 技術・家庭〔家庭分野〕で扱われる被服教材

学習指導要領は、時代の進展や社会情勢に対応する意味で、約10年度毎に文部科学省により改定されるが、中学校家庭科の被服（主として製作）分野に着目すると、戦後直後から現在までに大きく変遷している³⁾。昭和22・31年発行の中学校学習指導要領には、ワンピース、スカート、長着、羽織などの外衣が教材として掲載され、洋裁、和裁共に高度な技能・技術を必要とする内容であった。

昭和33年告示の学習指導要領において、「職業・家庭科」から「技術・家庭科」に科目名称が変更

* 生活環境学科准教授 ** 大阪夕陽丘学園短大准教授 *** 教育学科講師

となり、技術革新の時代的要請に応える科目として位置づけられ、啓発的職業体験の内容を担うこととなった⁴⁾。それ以前の学習指導要領には掲載のなかった休養着としての浴衣、パジャマが教材としてあげられた。高度経済成長期の真只中である昭和44年告示の学習指導要領には、洋服を中心として、ブラウス、スカート、パジャマ、ワンピースなどが教材としてあげられ、その後、男女共修が実現する⁵⁾までの20年間、これらの教材が中心に継承された。

家庭科の男女共修の実現は、男女が共に学ぶことは教育の側面では前進したと言えるが、学校現場において移行期には、教材の選定や指導に苦慮されたことが推察される。男女共修となるまでは、上述のブラウス、スカート、パジャマ、ワンピースが教材の中心であり、パジャマ以外は全て女子向きのアイテムである。ユニセックスのパジャマは、男女共に取り組めるアイテムであり、教材としては適すと考えられるが、男女を比べると手指の巧緻性は男子の方が低いこと⁶⁻⁸⁾や、授業時間数の側面から不可能と判断され、ショートパンツ、エプロン、パーカー、ベストがあげられ、中でもショートパンツ、エプロンが主として扱われることとなった⁹⁾。ショートパンツは、パジャマの一部であったロングパンツから丈は変わるものの、中学校の教材として過去35年以上にわたり、教科書に掲載され続けている¹⁰⁾。

ショートパンツは、比較的短時間で製作が可能であることや男女共に取り組める被服であること、エプロンとは異なり、小学校の家庭科の教材では扱われないこと¹¹⁾も中学生が取り組む教材に選定する重要な要素となり、長きにわたり、教科書に教材例として掲載されていると考えられる。股下、股上といった二足歩行の人間の身体部位に関する概念を学ぶと共に、股上の曲線縫いも技術取得において重要な点であり、様々な側面からパンツが教材例になっていると考えることができ、今後も中学校の教材として継承されていくと推察される。

3. 文部科学省検定済 中学校「家庭科」の教科書に掲載される被服の作品例

平成20年公示の学習指導要領¹²⁾に準拠した、中学校「家庭科」の平成23年に文部科学省検定済となった教科書は3社¹³⁻¹⁵⁾が発刊しており、それらの中で被服製作の作品例として扱われているものは、ハーフパンツ、ベスト、エプロンである。ハーフパンツにおいては、3社中、開隆堂¹³⁾と東京書籍¹⁴⁾の2社の教科書に掲載されており、これら2点のハーフパンツは、全く同じ名称ではあるが、縫製手順に違いがある。開隆堂¹³⁾のハーフパンツの型紙は、右パンツ、左パンツの計2枚から構成され、股上を最初に縫合する手順である。括弧書きで、「股上と股下の縫製順序は逆でもよい」との記載があるが、図解では、股上を先に縫う方法のみが紹介されている。一方で、東京書籍¹⁴⁾のハーフパンツの型紙は、同様に右パンツ、左パンツの計2枚から構成され、縫製手順としては、股下から縫い合わせ、左右それぞれを筒状にしてから股上を縫い合わせる方法である。

一般に丈の長いパンツにおいて、股下から先に縫い合わせ、丈の短いものは股上から縫い合わせる方法を説明している書籍が多くみられる¹⁶⁻¹⁹⁾。2社の教科書¹³⁾¹⁴⁾に掲載されているハーフパンツの場合、丈の長さとしてどちらの縫製手順でも可能と言えよう。上記2社の出版社の平成17年に文部科学省検定済となった教科書²⁰⁾²¹⁾では、開隆堂²⁰⁾は「ハーフパンツ」、東京書籍²¹⁾は「ショートパンツ」との名称で掲載され、いずれも股上から縫い合わせる方法である。また、開隆堂²⁰⁾は、平成23年に文部科学省検定済となった教科書¹³⁾には括弧書きで記載のあった「股上と股下の縫製順序は逆でもよい」との記載はされていない。変更に至った経緯および縫製順序の決定理由を出版社に確認し、得られた回答を表1にまとめた。

表1 出版社¹³⁾¹⁴⁾²⁰⁾²¹⁾が教科書に掲載した作品例の縫製順序およびそれらが採用された理由

検定済年月日		変更及び縫製順序決定の理由
H17.1.31	H23.2.15	
開隆堂	ハーフパンツ	<ul style="list-style-type: none"> ・大切にしていること「安全」「完成」 ・(時間数が短い中)効率よく、失敗なくできるように ・現場教員からの意見「股上から縫い始める方法」の方がやりやすい ・筒状にして、(片方を)中に突っ込む作業は難しい ・被服構成学のやり方をそのまま中学校におろすわけではなく、よほどの不都合がない限り、簡素化 ・「その通りでなくてもよい」のメッセージを込めて、順序の逆転可を記載 ⇒順番が異なってもきちんと履けるものができれば、絶対にこうでなければならないという風にはしていない
	股上を先に縫う方法	
東京書籍	ショートパンツ	<ul style="list-style-type: none"> ・製作工程の早い段階で成形の理解を促し、洋服の立体構成を学ばせたいとの意図 ・左右のパンツが早い段階で筒状になることでパンツの形状を理解しやすい ・製作の工程の中で、パンツのどこを縫っているのかが分かりやすい ・洋服が立体に組み合わされてできているということを実感しやすい ・作りやすさや分かりやすさは人によって感じ方の違いはあるが、現場教員のご意見等も踏まえまして、股下を縫ってから股上を縫う方法を採用
	股上を先に縫う方法	

下線=変更点

各出版社共に、中学校現場の教員に実情からの意見を求めるなど、慎重に議論されて決定されていることがうかがわれた。開隆堂¹³⁾は、完成することに重きを置き、限られた時間であることを踏まえた上で、安全を配慮し、かつ簡素化することを考慮し、股上を先に縫う方法を採用されたとのことであった。東京書籍¹⁴⁾は、衣服の製作が少なくなった現在、和服と洋服の構成の違いを感じる実習例として、ハーフパンツは貴重な題材と考え、この教材の中で、和服との違いである立体という部分を早い段階で学んでほしいとの思いから、股下を先に縫う方法に変更されたことが分かった。2つの出版社は、結果的に異なる方法での掲載となったが、両出版社共に、2種の縫製手順に一長一短があることを重々に理解した上で決定されていることが明らかになった。

4. 教職課程 教科に関する科目における教材としてのハーフパンツ

4-1 2種類の縫製手順のハーフパンツ

本学で開講している「衣服構成」(以下、「本科目」とする)は、被服構成学実習の基礎的な知識・技術を身につけることを目的とした科目である。縫製に関する基礎技術が習得できるように、基礎縫い(基礎的な縫い方15種)、裏付セミタイトスカート、半袖ブラウス(襟付き)を教材として扱い、本科目での最後にハーフパンツを教材として用いる授業カリキュラムとしている。裏付セミタイトスカートにおいては、文化式の方法²²⁾を用いて製図をいちから行い、半袖ブラウスについては身頃原型および袖原型(いずれも文化式)²³⁾を配布し、展開部分のみを学生が作図する形である。基礎縫い、セミタイトスカート、半袖ブラウスに含まれる縫製に関する技術を表2にまとめた。

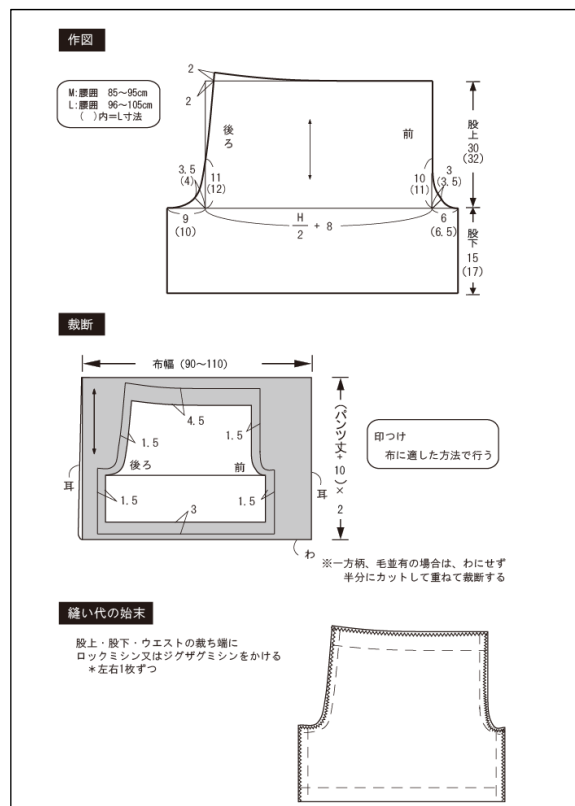
本科目は、被服分野を専門としない学科(食物分野、情報分野)の教職課程履修者のために開講されている教科に関する科目である。被服を専門としない学科の学生においては、大学で学ぶ被服製作実習はこの科目のみとなり、この1科目を履修・修得することで、卒業後には教員として生徒に教授できる知識と技術を身に付けることが必要不可欠である。そこで、本科目では、アイテムにおける技術面で最も簡単であるハーフパンツを本科目の最後の教材とし、ハーフパンツにおいては、教員からはプリントを配布するのみとし、一斉説明は行わず、学生が個々に取り組む形としている。家庭科の教員は中学校、高等学校共に1校に1名という環境も珍しくなく、教科の内容に関する相談や質問ができる同じ教科の教員が少ない(または居ない)状況である。そのような中、新任教員であっても先輩教員から教授されるのではなく、自分自身で教材の研究や開発をする力が求められることになる。教材の選定を行うためには、教科書や参考書から教材を取捨選択する方法があるが、上述のように相談

相手が同校に少ない・居ない場合、自分自身で解説を読み解く力が必要になる。すなわち、大学卒業と同時にこれらの能力を全て備えておく必要があるというわけである。

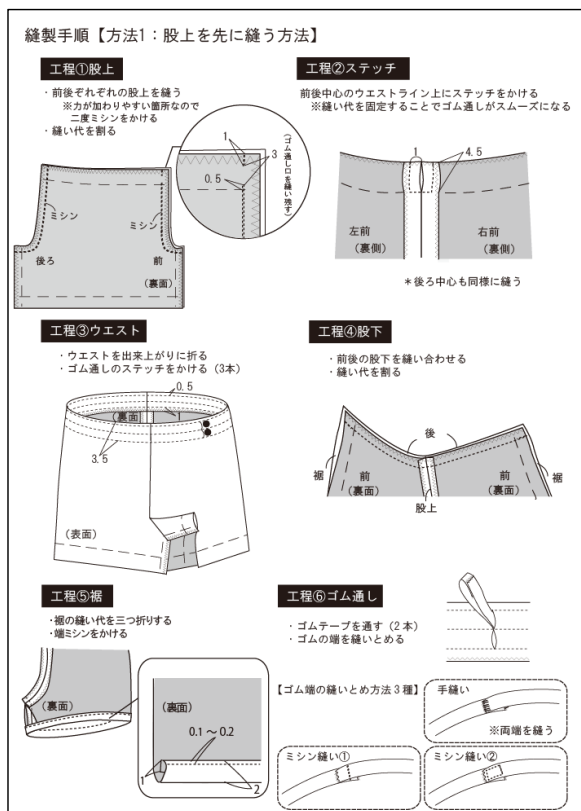
表2 3つの教材に含まれる縫製技術

	基礎縫い	セミタイトスカート	半袖ブラウス
縫製の種類	並縫い	仮縫い	仮縫い
	ぐし縫い	ダーツ縫い	ダーツ縫い
	半返し縫い	裁ち端の処理(ロックミシン)	接着芯の扱い
	本返し縫い	ファスナーつけ(普通ファスナー)	見返しの扱い
	(置き)しつけ	伸び止めテープの扱い	脇、見返しの裁ち端の処理(端ミシン)
	千鳥掛け	奥まつりによる裾の始末	衿作り(表衿と裏衿の縫い代寸法差)
	端ミシン	裏布の縫製	衿作り(衿先のふきの作り方)
	ロックミシン	三つ折りによる裾の始末	衿作り(衿先(角)の処理)
	ブランケットステッチ	中どじ	衿つけ(バイアステープの作り方)
	裁ち目がかり	ベルト芯を用いたベルト付け	衿つけ(衿、見返し、バイアステープの関係)
奥まつり	ファスナーまわりの裏布の始末	見返し裾の処理	
袋縫い	ホックつけ	袖作り(ぐし縫い)	
折り伏せ縫い	糸ループ	袖つけ(いせ込み)	
バイアス布による始末		袖付け(二度ミシン)	
まつり縫い		袖まわりの裁ち端の処理(ロックミシン)	
		ボタンホール	
		ボタンつけ	

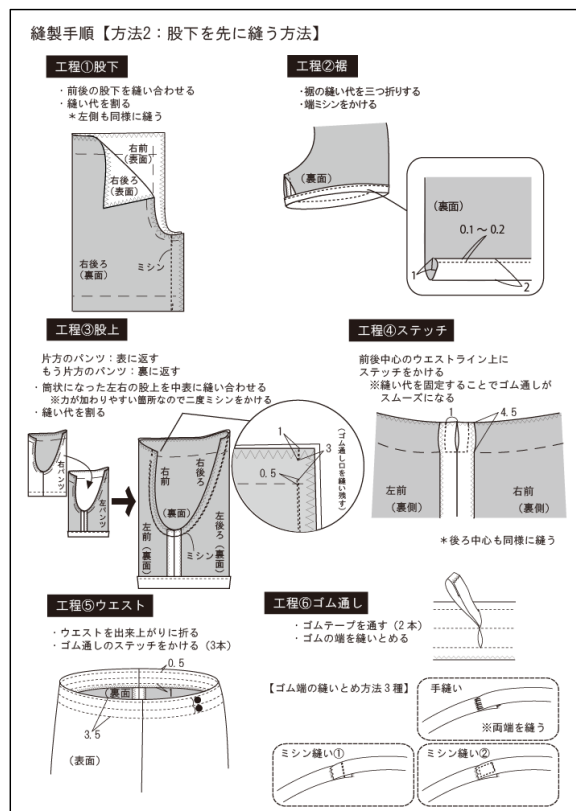
本科目では、2種の縫製手順のハーフパンツを両方製作することで、パンツの構成・構造の理解を促すだけでなく、それぞれのメリット・デメリットを考察し、勤務校の生徒に即した教材の提案や構築を自らできる力を養うことが期待できると考える。図1 (1) ~ (3) は、ハーフパンツを製作するに当たり、受講生に配布したプリント3種である。



(1) 作図・裁断・縫い代始末 (両手順共通)



(2) 製作手順（股上を先に縫う方法）



(3) 製作手順（股下を先に縫う方法）

図1 「衣服構成」で配布したハーフパンツ製作に関するプリント

製作の際に、サイズは実物大ではなく、2分の1サイズとすること、2種共に同じ生地を使用することを統一した。サイズに関しては、授業カリキュラム上の時間的都合によるものであるが、2種の比較をする上で、サイズを縮小することによるマイナス点はないと判断した。なお、股下と股上のいずれを先に縫うかに焦点を当てているが、最初に縫う箇所との関係から裾やウエストにおいても両者に差が生じることをここで追記する。

4-2 2種類のハーフパンツ製作における学生の評価

4-2-1 2種の手順の評定差

ハーフパンツ製作に対する学生の評価を得るため、完成したハーフパンツ提出の際にアンケート調査を実施した。アンケート調査の対象は、平成29・30年度「衣服構成」の受講者計64名である。

2種の縫製手順（股上を先に縫う方法、股下を先に縫う方法）について、表3に示す5つの設問を行い、いずれも5段階評価で回答を得る形式とし、解析方法は、t検定²⁴⁾を用いて、2つの母平均の差を検定した。

イメージを評価する際には、ランダム提示により順序効果²⁵⁾を打ち消す方法をとるが、ここでは、2種の縫製手順において、同一箇所の縫製が全く同じ方法では無いため、順序による影響はないものと考えている。

「待ち針の打ちやすさ」、「縫いやすさ」、「アイロンのかけやすさ」については、股上、股下、裾の3箇所それぞれについて設問を行った。それぞれの項目の平均値、標準偏差および解析の結果を表4に示す。グレーで網掛けしている箇所は、2種の縫製手順（股上を先に縫う方法、股下を先に縫う方法）の内、平均値の高い方を示している。

表3 ハーフパンツ2種の縫製に関する各所の評価項目および回答の選択肢

設問	選択肢				
待ち針の打ちやすさ	1. 大変打ちにくい	2. 打ちにくい	3. どちらでもない	4. 打ちやすい	5. 大変打ちやすい
縫いやすさ	1. 大変縫いにくい	2. 縫いにくい	3. どちらでもない	4. 縫いやすい	5. 大変縫いやすい
アイロンのかけやすさ	1. 大変かけにくい	2. かけにくい	3. どちらでもない	4. かけやすい	5. 大変かけやすい
全体として取り組みやすさ	1. 大変取り組みにくい	2. 取り組みにくい	3. どちらでもない	4. 取り組みやすい	5. 大変取り組みやすい
将来、教員になった際、この方法で教授したいか	1. 大変教授したくない	2. 教授したくない	3. どちらでもない	4. 教授したい	5. 大変教授したい

表4 ハーフパンツ2種の縫製手順による各所の評価

** p < 0.01, * p < 0.05

先に縫う箇所	平均値 標準偏差	待ち針の打ちやすさ			縫いやすさ			アイロンのかけやすさ			取り組みやすさ	(教員として)扱いたい教授法
		股上 **	股下 **	裾	股上 *	股下 **	裾	股上	股下 **	裾		
股上	平均値	3.97	2.88	3.77	3.63	2.73	4.06	3.23	2.80	3.72	3.52	3.55
	標準偏差	0.847	1.111	0.897	1.083	1.162	2.692	0.980	1.107	0.856	0.952	0.828
股下	平均値	3.38	3.69	3.70	3.25	3.55	3.89	3.30	3.55	3.78	3.45	3.48
	標準偏差	1.053	1.044	0.842	1.132	1.145	0.937	1.127	1.060	0.856	1.045	1.061

「待ち針の打ちやすさ」の股上および股下、「縫いやすさ」の股上および股下、「アイロンのかけやすさ」の股下に有意な差がみられた。

「待ち針の打ちやすさ」、「縫いやすさ」の股上縫いにおいては、股上を先に縫う方法が有意に打ちやすく、縫いやすいという結果である。股上を先に縫う場合の股上縫いは工程①、股下を先に縫う場合の股上縫いは工程③となる（図1参照）。また、「待ち針の打ちやすさ」、「縫いやすさ」の股下縫いにおいては、股下を先に縫う方法が有意に打ちやすく、縫いやすいという結果であった。工程としては、股上を先に縫う場合の股下縫いは工程④、股下を先に縫う場合の股下縫いは工程①である（図1参照）。

「アイロンのかけやすさ」の股下においては、股下を先に縫う方法が有意にかけやすいという結果である。股上を先に縫う場合の股下のアイロンは、工程④、股下を先に縫う場合の股下のアイロンは工程①となる（図1参照）。いずれの結果も工程として先に施せるほどやりやすいという結果であり、待ち針打ち、ミシン縫い、アイロンがけのいずれも平面状態に近い方が当然扱いやすい故の結果であると考えることができる。「アイロンのかけやすさ」の股上においては早い段階の工程だとしても、カーブ故のやりにくさを伴い、有意差が生じなかったと推察できる。以上の結果を踏まえると、総体的には、股上を先に縫う方法、股下を先に縫う方法の一方が特段やりやすいという偏りはなく、部位によって、結果として工程の早さによって差が生じていることになる。

4つ目、5つ目の設問である「作品の取り組みやすさ」と「(教員として)扱いたい教授法か否か」については、統計的な有意差はなく、「待ち針の打ちやすさ」、「縫いやすさ」、「アイロンのかけやすさ」の設問において、工程の早い場合にやりやすいと部位毎に感じていることを上述したが、そのことが起因し

ていると考えられる。

4-2-2 自由記述に記載された2種の縫製手順の違い

実施したアンケートには、2種の縫製手順でハーフパンツを作成したことに対する自由記述による考察欄を設けた。「作品の取り組みやすさ」と「(教員として) 扱いたい教授法か否か」は、平均値が僅差であり、統計的に有意な差が生じていないが、自由記述に記載されたコメントからどちらの縫い方が縫いやすく、きれいに仕上がったかおよびどちらで教授したいかを判断した結果を図2、3に示している。なお、股上から、股下からのどちらかが読み取れなかった回答は除き、図2は59名、図3は31名の回答を分類したものである。

4-2-1に述べた5段階評価では、「作品の取り組みやすさ」において、股上を先に縫った際の平均値は3.52、股下を先に縫った際の平均値は3.45（表4参照）であり、統計的にも有意差はなかったが、コメントから読み取った場合においても同様に大差はなく、54.2%と45.8%という結果であった。平面で扱える箇所によりやすさを感じるため、部位毎には差があるものの、全体としては差がないことがこれらの結果からも判断できた。一方、「(教員として) 扱いたい教授法か否か」の設問では、統計的な有意差はなかった（表4参照）が、コメントからは股上を先に縫う方法で教授したいと回答した割合が64.5%、股下を先に縫う方法と回答した割合が32.3%と2倍程度の差が生じており、5段階評価の平均値としては差が小さいものの、標準偏差の違い（表4参照）の理由がこの割合の差に表れている可能性がある。

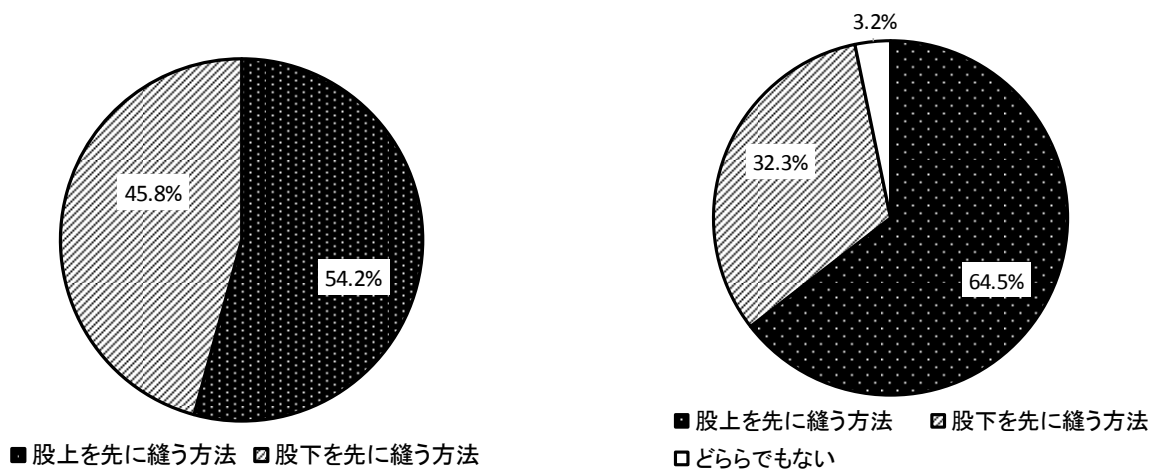


図2 縫いやすさおよびきれいに仕上がった縫い方 (N=59)

図3 (教員として) 教授したい縫い方 (N=31)

以下のA)~N)は、自由記述欄のコメントの一部（下線は筆者）である。なお、これらは原文ままを一部抜粋したものである。また、図4は、記載されたコメントからキーワードを抽出したものである。なお、各自のコメントの中からキーワードと判断したものを全て抽出しており、一人当たりの最大数は結果として4ワードであった。

ミシンのかけやすさやきれいに仕上がる理由等を中心に考察しているが、A)は、初期段階で左右を縫合しない状態で進めることになる「股下を先に縫う方法」の場合には、片方を紛失する生徒が出る可能性を挙げ、B)、C)は布の裏表を注意しなければならない煩雑さを示唆するなど、やりやすさだけでなく、中学校で一斉授業をすることを想定した内容が記されている。また、D)、K)、L)はモチ

バージョンやイメージに関することを考察しており、生徒のやる気についても考慮していることが分かる。

裾に関しては、「待ち針の打ちやすさ」、「縫いやすさ」、「アイロンのかけやすさ」いずれにおいても、統計的に有意差はみられなかった（表4参照）が、Nの考察には、自らの失敗を通して、裾上げの作業に関して左右パンツを縫合していない状態のできる「股下を先に縫う方法」が良いとの記載があり、数値のみでは読み取ることができない内容を確認することができた。

- A) 股の縫い方の順を変えただけで縫う場所の順番が異なり、ただ工程をバラバラにこなすだけではなく、組み立てる順番を意識する重要性を学んだ。股上を縫うまで左右は合体しないので紛失の可能性があり、両方のパンツを同じ向きにして（表と表、裏と裏）縫い合わせてしまうかもしれないので、作りやすさはやや劣りますが「股上を先に縫う方法」で授業したい。
- B) 将来、教員になったら、「股上を先に縫う方法」を教材として扱いたいと思う。でも、実際に私が縫いやすかったのは「股下を先に縫う方法」だった。「股上を先に縫う方法」の方が生徒のミスが少ないと思うが、股下を縫うのが難しいと思う。その点、「股下を先に縫う方法」は、ミシンは全体にかけやすいが、内面にする等の作業を間違える可能性が高いのではないかなと思った。
- C) 教員になって教える時には、「股下を先に縫う方法」でしたいと思った。どちらもやりやすかったが、「股上を先に縫う方法」の股下の部分がきれいに縫いづらいと感じた。「股下を先に縫う方法」の股上の部分を縫う際、裏表を間違わないように注意を呼び掛けたいと思った。
- D) 「股下を先に縫う方法」で教えたい。先に股下を縫う方が、ズボンの形に近づいてモチベーションが上がる。
- E) 「股上を先に縫う方法」は、とても楽にできたが、「股下を先に縫う方法」は、構造が難しく、縫う時もやりにくくて大変だった。
- F) 「股下を先に縫う方法」がやりやすかった。股を一つずつ縫うことができるし、アイロンもかけやすかった。
- G) 「股下を先に縫う方法」の方が全体的に取り組みやすかったのは、アイロンで縫い代を割りやすいのと、ミシンで縫う時に楽に縫えるから。特に、股上を先に縫うと股下を縫う時にとっても縫いにくく感じた。ウエストや裾は縫いにくさとしては同じだが、股下を先に縫った方が股上も縫いやすくていいと思う。出来上がった作品を見ても股下から縫った方がキレイに出来ていて、股上から縫った作品は股下の部分がキレイになっていない。やはりやり方の違いでここまで出来上がりに差が出てくると思うと、やりやすいやり方をみんなには教えてあげたいと思う。
- H) 「股上を先に縫う方法」は、「股下を先に縫う方法」に比べて図解が分かりやすく特に迷うことなく進んだが、アイロンのかけやすさで考えると「股下を先に縫う方法」の方がかけやすく、更にミシン時の事故（別の布を一緒に縫ってしまう等）が少ないと感じたため、教授するなら「股下を先に縫う方法」で教授したいと思った。
- I) 「股上を先に縫う方法」は少し手間がかかり、「股下を先に縫う方法」は股下をミシンで縫うのが難しいので、縫うのが得意な人には股下から、それ以外の人には股上から縫う方法で教授したいと思った。
- J) 「股上を先に縫う方法」は、股下を縫う時、ミシン縫いがとてもやりにくかったし、きれいに出来なかった。「股下を先に縫う方法」だと縫いやすかったし、余分な布をかんでしまうこともなかった。そのため教授するときは、「股下を先に縫う方法」で教えたい。

- K) 「股下を先に縫う方法」が「股上を先に縫う方法」より簡単に縫えたと感じた。「股上を先に縫う方法」だと、工程④で股下を縫い合わせる時に待ち針を打ちにくく、縫いにくいと感じた。また、股下を縫う時にイメージをして縫わないとスカートのような形になってしまうことがあるので作業的にも「股下を先に縫う方法」がいいと思った。
- L) 「股上を先に縫う方法」の股上を縫う方法が分かりやすいと思ったが、「股下を先に縫う方法」の筒状にするところが印象的で、またチャレンジしたいと思った。教授については、「股上を先に縫う方法」の方が初心者にもわかりやすい方法だと感じたので、「股上を先に縫う方法」の方で教授したい。
- M) 「股上を先に縫う方法」で教授したい。「股下を先に縫う方法」だと2枚重ねて股上を縫うとき、股の部分がボコボコしてミシンを進めるのが難しかった。見た目は同じでも色々な縫い方があって面白かった。
- N) 「股上を先に縫う方法」は、下側にある反対の足のパンツも一緒に縫ってしまうことが2回程あったので、裾を別々で縫う「股下を先に縫う方法」の方が良かった。

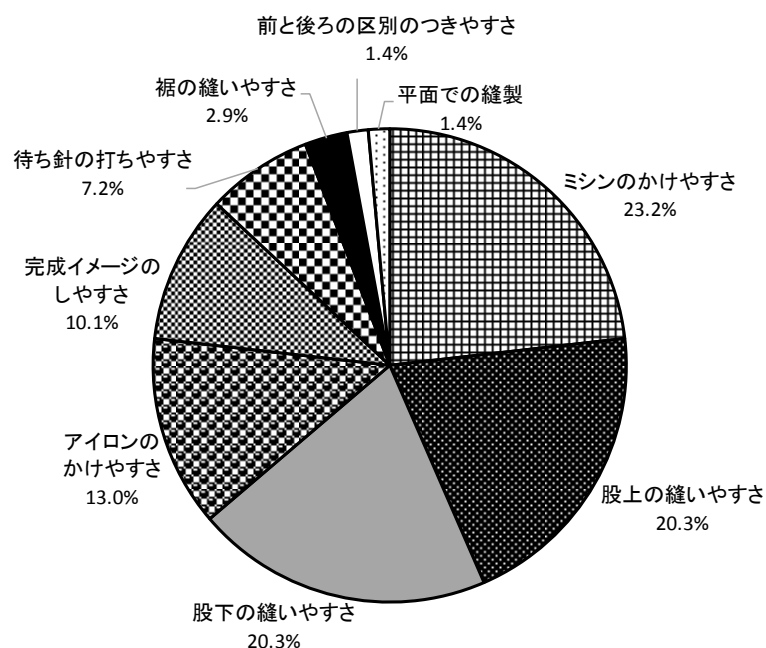


図4 ハーフパンツの2種の縫製手順に関するコメントに記載されたキーワード (N=64)

5. まとめ

ハーフパンツの2種の縫製手順を検討した結果、「作品の取り組みやすさ」においては股上が先、股下が先、どちらの縫製手順においても平均値やコメントに差はみられなかった。また、「(教員として)扱いたい教授法か否か」においても統計的な有意差はなかったが、自由記述のコメントからは股上を先に縫う方法で教授したいとの回答が股下を先に縫う方法の2倍となる結果を得た。

中学校家庭科教材としての縫製手順を検討した場合、ここで注視すべきは、「(教員として)扱いたい教授法か否か」についてであろう。「作品の取り組みやすさ」については、自分自身がハーフパンツを製作する際のやりやすさであり、股上、股下の縫製手順についてはどちらもあまり差はなかった。一方、「(教員として)扱いたい教授法か否か」においては、自分自身が教員となった場合を想定し、

生徒に理解しやすい縫製手順について教授する方法だけでなく、仕上がりの美しさや生徒のやる気についても考慮している。取り組みやすさは、対生徒において、やる気につながる重要な要素ではあるものの、扱いたい教授法の選択にはそれらの要素も加味されていると考えることができる。さらに、本研究の被験者である学生たちは、「股上を先に縫う方法」が「股下を先に縫う方法」に比べ、中学校の教材として適する縫製手順と判断したことが示唆される。しかしながら、実際に教壇に立った際には、生徒は一様ではなく、接する生徒たち、その学年や学校に対して必要な学びが異なり、それらに適した方法があると言える。

中学校、高等学校の教員は、使用する教科書の選定を各教科の教員が主に行うことが通例で、生徒に合った教材を準備することの第一段階において、教科書選定は大きな役割を果たしていると言える。教科書の内容を詳細に読み解き、何が生徒にとって適切であるか選定する力が各教員に必要である。本科目で取り組んだハーフパンツを2種の縫製手順で製作する教材がその一助となることを期待する。

教員養成側としては、多角的な視点を持って、生徒に即した教材の選定・開発ができる教員を育成するための授業カリキュラムの構築を目指さなければならない。

謝辞

アンケートの一部は、平成30年度に非常勤講師として「衣服構成」をご担当頂きました吉野鈴子先生のご協力により実施された。ここに深謝致します。

注及び参考文献

- (1) 教員免許取得に関するカリキュラムは平成29年度入学生を対象としたものである
- (2) 「ショートパンツ」と「ハーフパンツ」の名称については、一般にひざ丈またはひざ丈より上のパンツ丈のものを総称して「ショートパンツ」と呼ぶが、中学校の教科書において2019年現在、「ハーフパンツ」との名称で掲載されていることから本稿では、引用箇所を除き、「ハーフパンツ」の名称を用いることとする
- (3) 西之園君子「中村民恵戦後における小・中・高等学校の家庭科教育の変遷（第1報）－学習指導要領における被服教育指導内容の改訂－」『鹿児島純心女子短期大学研究紀要』第30号，2000，pp.11-29
- (4) 中菌政彦「技術・家庭科教育の過去から未来を見る。（調査研究）」『第一工業大学研究報告』第24号，2012，pp.63-74
- (5) 宮下理恵子「高等学校家庭科の男女共修実現までの議論」『日本家庭科教育学会誌』第53巻 第3号，2010，pp.185-193
- (6) 藤沢キミエ，太田昌子「被服技能を測定する一方法（糸むすびテスト）について」『家政学研究』6，1958，pp.66-71
- (7) 川端博子，鳴海多恵子「小学生の手指の巧緻性に関する研究」『日本家政学会』60，2，2009，pp.123-131
- (8) 川端博子，田中美幸，鳴海多恵子「生活の自立，学力と児童の手指の巧緻性に関する研究」『日本家政学会誌』61，2，2010，pp.73-80
- (9) 三輪聖子，辻泰子，夫馬佳代子，西村敬子「家庭科教育における被服領域の現状と動向－被服製作の実態と意識－」『岐阜女子大学紀要』第30号，2001，pp.153-159
- (10) 安川あけみ，日影弥生「中学校技術・家庭科におけるパンツ製作の変遷と提案」『日本家庭科教育学会第61回大会 研究発表要旨集』2018，pp.38-39
- (11) 高木幸子「小学校家庭科教科書の内容構成と実習題材の変遷」『新潟大学教育学部研究紀要』第5巻 第2号，2012，pp.181-188
- (12) 文部科学省，<http://www.mext.go.jp/> (2019/3/1)
- (13) 鶴田敦子他『技術・家庭 [家庭分野]』開隆堂（平成23年2月15日文部科学省検定済），2015
- (14) 佐藤文子，金子佳代子他『新しい技術・家庭 家庭分野』東京書籍（平成23年2月15日文部科学省検定済），2015

- (15) 汐見稔幸他『技術・家庭 家庭分野』教育図書（平成23年2月15日文部科学省検定済），2015
- (16) しかのるゝむ『子ども服の基礎ノート』文化出版局，2008， p.47
- (17) 尾方裕司『小さくてもきちんとした服 ニューヨークの子ども服』文化出版局，2009， p.59
- (18) 林ことみ『子ども服作りの基礎』文化出版局，2008， p.31
- (19) 文化服装学院・編『子供服』文化出版局，2005， p.125
- (20) 中間美砂子他『技術・家庭 [家庭分野]』開隆堂（平成17年1月31日文部科学省検定済），2008
- (21) 佐藤文子，渡辺彩子他『新しい技術・家庭 家庭分野』東京書籍（平成17年1月31日文部科学省検定済），2008
- (22) 文化服装学院編『改定版・服飾造形講座② スカート・パンツ』文化出版局，2011， p.24
- (23) 文化服装学院編『改定版・服飾造形講座① 服飾造形の基礎』文化出版局，2010， p.86
- (24) 石村貞夫『デズモンド・アレン. すぐわかる統計用語』東京書籍，2012， p.167
- (25) 野呂影勇『官能検査ガイドブック』日本規格協会，1987， p.230